

第 2 回 函館市観光振興財源検討委員会 議事概要

1 開催日時, 場所

(1) 日 時 令和元年 8 月 29 日 (木) 18:00 から 19:15 まで

(2) 場 所 市役所本庁舎 8 階第 1 会議室

2 議事

(1) 第 1 回検討委員会議事録の承認について

(2) 観光振興に関する財源確保策の検討について

ア 観光施策の拡充とその財源確保の必要性について

(まとめ)

- ・ どのような制度になるかは今後の議論だが, 財源確保の必要性があるという事で意見が統一された。

(意見)

- ・ 定住人口減少に伴う経済縮小抑制のため, 観光振興による交流人口の拡大を推進していく必要がある。
- ・ ナイトタイムエコノミーの推進など取り組まなければならない施策が数多くあることは理解した。
- ・ 観光は地域間競争であり, 各地で様々なことに取り組んでいて, イベントも含めて, 各地に負けないような魅力ある街にするためにも財源の確保が重要な課題である。
- ・ 函館空港について, 企業連合にまかせるだけでなく, 地域で側面から支えていくことが大切であり, そのためには, いずれかの財源が必要である。
- ・ インバウンドの増加による観光公害対策を考慮した上での財源確保をしていかなければならない。

イ 観光振興のための財源確保策について

(まとめ)

- ・ 宿泊税を含む観光税という形で、今後、法定外目的税による財源確保について議論を進めることで意見が一致した。

(意見)

- ・ 財源については、宿泊税を検討した方が良いと感じている。ただし、宿泊事業者の負担にならないような制度設計を検討して欲しい。新たな税収は、どのように使うかビジョンを作り、観光客・宿泊事業者の理解を得られるような施策に充てて欲しい。
- ・ 今の段階では、明確に宿泊税が良いとは言えない。事務負担などを整理して、宿泊事業者の理解を得られるのであれば、進めていけばいいと思う。
- ・ 宿泊税以外だと対象施設をどうするか、観光客・市民の色分けも難しい。宿泊税も、市民の扱いについて議論は必要だが、宿泊税がもっともいいと思う。
- ・ 宿泊税ありきではなく、朝市、タワー、バス、ホテル、旅館、ロープウェイなどの観光事業者で少しずつお客様からいただく方法があってもいいと思う。
- ・ どうして、宿泊事業者だけに負担を強いるのかわからない。飲食店でも市民が主に利用する店、観光客しか来ない店、線引きは難しいが、宿泊事業者に特定の観光事業者も含めて議論して欲しい。
- ・ 宿泊税の導入ということであれば、事業者に対する補助金、施策も必要だと思う。
- ・ 他都市と同様に宿泊税は未来永劫続けるものではなく、3～5年で見直しをすることを制度に定めて、導入に踏み切ることも必要ではないか、と考える。
- ・ 観光事業者から広く浅くというのは、消費税的な考え方である。税は簡素でわかりやすい方が良く。消費税にさらに観光税を消費税的に各事業者にかけるのが良いかどうか。